防災の絆・石川

№14＜25.12.1＞発行責任者
日本防災士会石川県支部
支部長　土田　満
事務局長　福谷　正信

北信越連絡協議会を立ち上げる

11月16日（土）に金沢で設立総会開催

北信越5県の支部では、かねてから災害時の広域連携の必要性を共通認識し、「北信越連絡協議会」設立に向けて準備を進めてきたが、去る11月16日（土）金沢市消防局において設立総会を開催し、「日本防災士会北信越地区連絡協議会」を立ち上げた。

5県のうち長野県は準備が整っていないことから設立時の参加はならなかったが、新潟県・富山県・福井県・石川県の4県の設立準備委員17名が集まって設立総会を開いた。

総会には、地元石川県から防災士50名も参加し、熱心に議事に聞き入っていた。

設立総会は、福谷正信防災士（石川県支部事務局長）の進行で始まり、準備委員を代表して土田満石川県支部長が設立までの経緯を説明し、広域連携の意義などについて挨拶。

来賓には、地元石川県から馳浩衆議院議員、中村勲石川県会議員、谷内律夫石川県会議員が招かれ3氏から「安心安全の街づくりのため、防災士の皆さんが広域連携に取り組まれることは大変ありがたいこと。今後のご活躍を期待したい。」旨の祝辞があった。

←挨拶に立つ土田満石川県支部長

総会議長には地元石川県支部理事の市濱等氏（能登町議会議員）が選出され、福谷事務局長から提案された会則の制定、活動計画が承認され、役員が次の通り選出された。

また、議事の最後には4県の支部長が議長席前に進み、「包括的連携協定にかかわる協定書」に署名・調印を行い、総会を締めくくった。

会長	土田　満（石川県支部長）	副会長	別府　茂（新潟県支部長）
副会長	小杉　邦夫（富山県支部長）	副会長	黒川　勲（福井県支部長）
事務局長	福谷　正信（石川県事務局長）	事務局（理事）	辻子　裕二（福井県事務局長）
事務局（理事）	尾身　誠司（新潟県事務局長）	事務局（理事）	黒畑　喜昭（富山県事務局長）
事務局（理事）	上山　忠夫（石川県副支部長）	事務局（理事）	東　茂男（石川県理事）
監事	有塚　宣喜（福井県副支部長）	監事	中川　勲（富山県副支部長）

←協定書に署名する黒川勲福井県支部長

総会後には、陸上自衛隊金沢駐屯地の福山達也業務隊長（2等陸佐）を講師に迎えて、「陸上自衛隊の災害派遣活動～防災士活動の広域連携の一考察」と題して基調講演が行われ、災害時における防災士の役割について災害派遣活動の実践の中から貴重な体験に耳を傾けた。

その後に、一連の行事を締めくくる形で、日頃石川県支部が取り組んでいる防災士スキルアップ研修を他県の皆様と一緒に取り組んだ。

内容は、①新聞紙で避難所で使うスリッパづくり（中野忠史防災士の指導）②ロープ結策訓練（濱田英一防災士の指導）③身近な材料を使っての応急手当・毛布だけで行う担架でのけが人搬送訓練（前田忠篤・中野忠史防災士の指導）

石川県防災総合訓練に防災士会が初めて参加

11月2日（土）晴天の下、白山市で開催

↓谷本訓練本部長（知事）に説明する竹川理事

第54回石川県防災総合訓練が11月2日（土）午前9時から白山市一円で県内全域から83機関1万2千名が参加して開催された。防災士会ではこの訓練に初めて参加し、地域住民らに新聞紙のスリッパづくりや毛布だけを使ってのけが人搬送、ﾚｼﾞ袋・ﾗｯﾌﾟを使った応急手当について指導した。防災士会では、会員20名が参加して指導に当たった。

↑　閉会式に参加したﾒﾝﾊﾞｰで記念撮影

金沢市民マラソン大会に１９名がボランティア参加

１１月１０日（日）金沢市営陸上競技場ｽﾀｰﾄ・ｺﾞﾙする「第２０回金沢市民マラソン大会」が開催された。防災士会では、活動をＰＲするために３年前からｽﾎﾟｰﾂﾎﾞﾗﾝﾃｨｱとして参加してきた。

今回からは北加賀郵便局長会で１６名がﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ登録され、これまでの１６名から登録人数が倍増となった。

今大会には、３２名の登録者のうち１９名が参加し、前日の選手受付（午前中）と当日の選手受付（午前5時３０分集合）とｺﾞｰﾙ誘導のﾎﾞﾗﾝﾃｨｱを行った。

当日は大荒れの天気となり、一部のテントが風で飛ばされるなどしたため、記録証渡しが後日郵送に変更されたり、飛び賞渡しも中止となったり、カッパを着用しての大変なボランティアとなりました。参加された会員の皆様本当にお疲れ様でした。これに懲りず、来年春の「グリーンウォーク」にも多数の参加をお願いします。

会員の皆様で金沢近郊にお住まいの方、スポーツボランティアへの登録をなさいませんか。
希望者は事務局福谷（携帯090-2123-3300）までご連絡ください。

第２回防災士スキルアップ研修会を七尾市で開催

今年度２回目の防災士のスキルアップ研修会を１０月１２日（土）初めて七尾市で開催した。

今年度は、金沢市を離れて春には小松市で開催し、今回は七尾鹿島消防署の会場をお借りしての開催となった。

七尾市や隣接する中能登町から会員以外の防災士も多数参加し、会場溢れんばかりの１２０名が参加した。

内容は春とほぼ同じ内容で、白山小太郎防災士の司会進行で始まり、土田満支部長の開会挨拶の後、福谷正信防災士と杉村良弘防災士により①防災訓練における防災士の役割②地域における防災活動の講義があり、全員で新聞紙によるスリッパづくりを学んだ。

続いて実技訓練に入り、大月真由美防災士による身近なものを使っての応急手当やけが人搬送訓練とロープワーク訓練を行った。

途中、消防署員の緊急出動のため、地震体験が中止となり、ロープワークの指導も消防署員にお願いしていたのができなくなったため、急きょ不慣れな役員による指導となってしまいました。受講された皆様には申し訳ありませんでした。

↑新聞紙でスリッパづくりを学ぶ会員

今後の予定

1　役員会

平成２６年1月２５日（土）午後1時３０分から午後4時ころまで

役員会終了後に支部新年会を予定しています。

2　平成２６年度総会

平成２６年4月２６日（土）午後2時００分から

3　役員会

平成２６年4月１２日（土）午後1時３０分から

議題は総会資料の審議、２６年度活動計画について

開催案内は別途行います。

北陸中日新聞
2013年(平成25年)11月17日(日曜日) 【石川】 12

北信越防災士 連絡協を設立

金沢で総会

北信越五県の防災士の連携強化で広域的な防災力アップを目指す日本防災士会北信越連絡協議会が十六日、設立された。金沢市泉本町の市消防局で開かれた設立総会で、会長に就いた土田満・日本防災士会石川県支部長は「防災士が一歩でも二歩でも前へ出て連携に努めたい」と協力を呼び掛けた。

総会には長野を除く石川、富山、福井、新潟の四県の防災士約七十人が出席。土田会長は、大型台風が相次ぎ各地で甚大な被害が出た今年を振り返り、防災士の役割の重要性を指摘した。

参加者は連携を確認する協定書を交わし、今後長野にも参加を呼び掛ける方針を決定。活動計画として大規模災害時に設置されるボランティアセンター現地本部で活動することを念頭に連絡態勢を充実させ、各県支部ごとに行う防災研修などに相互参加するなど防災技術の維持向上を図る。

副会長に別府茂・新潟県支部長、小杉邦夫・富山県支部長、黒川勲・福井県支部長が就いた。

最初の防災研修も行われ、四県参加者合同で負傷者の応急手当てや搬送訓練などに取り組んだ。（室木泰彦）

北國新聞
県内総合 2013年(平成25年)11月17日(日曜日)

北信越の防災士連携

金沢で連絡協議会設立総会

NPO法人日本防災士会北信越連絡協議会の設立総会は16日、金沢市消防局で開かれた。石川、富山、福井、新潟各県の支部員ら約70人が、大規模災害に備えて連携を深めることを申し合わせた。

会長に就いた土田満石川県支部長が「地域の枠を超えて協力したい」とあいさつ＝写真。来年度の活動計画では、各支部の防災研修への相互参加や、災害時の連絡体制の整備などを盛り込んだ。

陸上自衛隊金沢駐屯地の福山達也業務隊長が「防災士活動と広域連携の一考察について」と題して講演した。新聞紙製スリッパの作り方などを教える防災研修会も開かれた。

北陸中日　19　【能登総合】　2013年（平成25年）9月7日（土曜日）

新聞紙でスリッパ
来月防災士研修会
七尾、一般も可

日本防災士会県支部は十月十三日午前九時から、七尾市つつじが浜の七尾鹿島消防本部で、防災士スキルアップ研修会を開く。

災害発生時の実践的な対応能力の向上を目指す。防災訓練の内容の講義のほか、新聞紙を使ったスリッパと食器づくり、ロープ活用の実技や非常食作りの体験などを学ぶ。

防災士に限らず、防災に関心のある人なら無料で参加できる。定員先着百人。

希望者は三十日までに、はがきで〒920-0961 金沢市香林坊二の四の三〇 香林坊ラモーダ七階「日本防災士会石川県支部」に申し込む。問い合わせは、支部の福谷正信事務局長＝電090（2123）3300＝へ。

北陸中日新聞
2013年（平成25年）10月16日（水曜日）　【能登】　20

防災士 災害へ研修会
能登で初 七尾などから120人

非常時に使うロープの結び方を学ぶ実技研修＝七尾市つつじが浜で

防災士に災害時の実践的な対応を身に付けてもらう研修会が、七尾市つつじが浜の七尾鹿島消防本部であった。日本防災士会県支部の主催で、能登での研修会は初めて。七尾市や中能登町などから百二十人が集まった。

参加者は実技の訓練で、ストッキングやスーパーのレジ袋を使って包帯の代わりにする救急手当てを復習。その場にいた消防署員から、建物の窓から下りる際に体をロープに固定する方法を教わる場面もあった。

防災士はNPO法人「日本防災士機構」が認定する基準。災害時に、救急手当てや避難所の管理などの役割が期待され、県内では二千人以上が認定を受けている。県支部は「ペーパー防災士」を防ごうと、四年前から金沢市で研修会を始めた。（荒木正親）

北國新聞
2013年（平成25年）10月16日（水曜日）　北　（32）

県内防災士の技術
向上へ七尾で研修

日本防災士会県支部の防災士スキルアップ研修会（本社後援）は13日、七尾市つつじが浜の七尾鹿島消防本部で開かれ、県内の防災士約120人が災害時に役立つロープの結び方などを確認した。

参加者は本結びやもやい結びなどを実践したほか、新聞紙でスリッパを作った。アルファ米の試食も行った。

北國新聞　25.11.20（水）　第3種郵便物認可

防災士3千人計画
2年前倒しで達成へ

計2494人に

ばらつき解消が課題

2016年度までに地域の防災士を3千人に倍増させる県の計画が、目標を上回るペースで進んでいる。昨年4月のスタートから今年10月末までに932人が登録し、計2494人となった。このペースで進めば予定より2年早く、来年度中にも3千人を超える見通しとなったことから、県は最終目標の「1町会に1人」となる4千人確保に向け、計画の見直しを検討する。

防災士はNPO法人「日本防災士機構」が設けた民間資格。研修と救急救命講習を受け、試験に合格すれば取得できる。

大規模災害に備え、日ごろから地域で防災意識の啓発に当たるほか、災害時には消防や警察が出動する前に、住民を安全な場所に避難させたり、救助活動を行ったりする。

養成を後押し

県は昨年度、県内に約1500人いた防災士を5年で倍増させる計画を策定した。養成講座の受講料（約4万円）を各市町と半分ずつ負担し、意欲ある住民の資格取得を後押しする取り組みで、昨年度は412人、今年度は4～10月で520人が防災士に登録。県によると、来年3月末までにさらに増える見込みという。

昨年度の県内の防災士数は、人口1万人当たり16・9人で全国3位。1位は大分で33・7人、2位は愛媛で26・7人となっている。

県は「防災士と協力して万一の災害に備えたい」（危機対策課）としており、今後も各市町と連携して防災士の養成を進める。

視点

防災士の人数が増えているのは、主に東日本大震災をはじめ、ゲリラ豪雨などの災害を受け、県民の防災への意識が向上しているからだ。

市町別の人数で注目されるのは、輪島市と穴水町の多さ。人口1千人当たりの防災士数はいずれも2けたで、他の市町を大きく上回っている。

2007年の能登半島地震では、輪島市、穴水町に被害が集中し、多くの住民が避難生活を余儀なくされた。県は両市町の防災士が多い理由について「恐ろしい地震を経験し、災害に備える意識が高まっているのではないか」とみている。

輪島市、穴水町に次いで、珠洲市、かほく市、志賀町の順に多く、1～10位は能登の9市町で占めた。逆に少ないのは加賀地区で、加賀市は0・88人と全19市町の中で唯一、1人を切るなど、地域によって偏りがあるのが分かる。

災害発生時は多くの人がパニックになり、逃げ惑う人もいる。地域の「防災司令塔」は欠かせない。3千人は達成される見込みだが、各地域のばらつきをどう解消するのかが課題だ。

（宮本章史）

県内各市町の防災士数

市町	人口	防災士数	千人当たりの防災士数
金沢	463772	631	1.36
七尾	55582	93	1.67
小松	107190	149	1.39
輪島	28028	416	14.84
珠洲	15134	104	6.87
加賀	69214	61	0.88
羽咋	22324	50	2.23
かほく	34300	189	5.51
白山	109411	182	1.66
能美	48955	56	1.14
野々市	55147	63	1.14
川北	6307	15	2.37
津幡	36893	92	2.49
内灘	27053	79	2.92
志賀	21035	85	4.04
宝達志水	13503	23	1.70
中能登	18021	35	1.94
穴水	9021	102	11.30
能登	18125	69	3.80
合計	1159015	2494	

※人口は10月1日現在

「設立総会で署名調印した協定書」

包括的連携協定にかかわる協定書

「日本防災士会会員の活動理念」を具現化、地域社会貢献をさらに鮮明にし、会員並びに北信越各支部の活動強化を図ります。

1　力を合わせ　多彩な地域社会貢献活動

1　災害が発生した場合　行政や地域要請に基づき活動し、情報の提供（共有）

1　被災者のニーズに添える質の高い知識、技能の習得

1　各支部の中核会員を目指す研修会を開催

1　その他支部相互に連携協力を行うことが必要と認める事項を遂行

平成２５年１１月１６日

日本防災士会北信越連絡協議会

石川県支部長　土田　満

福井県支部長　黒川　勲

富山県支部長　小杉邦夫

新潟県支部長　別府茂